

研修参加報告書

令和元年 8月 6日
会派名 令政会
会派代表者 尾関 昭
(参加者：中野裕二)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和元年 7月 29、30日（月、火曜日）
研修時間	7月29日 13：00～17：30 7月30日 9：25～14：10
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	自治体予算を考える (講師：金崎健太郎氏 関西学院大学法学部 教授)

研修参加報告書

年月日	令和元年 7月 29、30日（月、火曜日）
研修時間	7月29日 13:00～17:30 7月30日 9:25～14:10
研修場所	全国市町村国際文化研修所
研修内容	自治体予算を考える （講師：関西学院大学法学部 教授 金崎健太郎氏）
<p>■目的 講習は自治体予算の原則、歳入予算の基礎とチェックポイント、歳出予算の基礎とそのチェックポイント、財政の現状把握～地方公会計の活用までと幅広く講習を受けることができる。そのため、幅広い知識を高め江南市の予算チェックに活かしていきます。</p>	
<p>■内容</p> <p>●自治体予算の原則 予算とは、一般会計年度（4月1日～翌年3月31日）の歳入と歳出の見積もり 予算の意義</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自治体の行政がどのように行われるかを具体的に表現した一覧表 ② 住民を代表して議会が首長をコントロールする手段 ③ 予算を通じて首長が行政執行をコントロール ④ 住民に情報提供、納めた税金がどのように使われ、効果が住民に還元されるかを判断する基礎 <p>予算公開の原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民への公共サービスの提供 予算によって実現していく ・予算について、住民に理解されて、協力を得ることが必要になる ・予算の住民への公表と予算の内容をわかりやすくする工夫が必要 <p>予算の編成から成立・執行まで</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予算は、約半年かけて、自治体の全組織を挙げてつくられる <ol style="list-style-type: none"> ① 庁内では、財政当局が中心となり、庁内各部局との間で調整し、予算原案をまとめる（翌年度の財源見通し、各分野の政策の調整） ② 市町村長が予算案を議会に提案 ③ 議会で審議 可決されると予算が成立する <p>●予算のチェックポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 予算全体への視点 <ol style="list-style-type: none"> ① 予算規模 ② 財源不足の発生の有無、その処理 	

③ 一般財源の確保の状況

2 健全な財政運営の視点

- ① 将来の財政負担の見通しと抑制
- ② 義務的経費の状況
- ③ 基金の積立・取崩しの状況
- ④ 行財政改革の推進

3 予算に盛り込まれた政策・事業への視点

- 財政の現状把握① 財政判断
- 財政の現状把握② 地方公会計の活用

地方公共団体における財務諸表の作成

目的：現金主義会計・単式簿記では見えにくいフローとストックの情報を明らかにすることで、財政の透明性を向上

- ① 貸借対照表
- ② 行政コスト計算書
- ③ 純資産変動計算書
- ④ 資金収支計算書

● 意見交換会の中では各テーマに別れ、それぞれが話し合われた。

① 予算審議のあり方② 決算審査や事業の評価③ 財源確保策④ 予算・財政状況に関する住民への情報提供、住民の意見聴取の方法⑤ 公共施設の老朽化対策⑥ 歳出の効率化（アウトソーシング、ICT 活用など）

■ 所感

少子高齢化、人口減少が更に進んでいく中で市税等の収入は減少し、扶助費等といった義務的経費は上昇していくことが予測されている。1960年代から70年代に集中的に整備され40年以上経過した公共施設が約8割を占め、大規模な改修や更新の時期が間近に控えている。限られた財源の中で、歳入歳出のバランスを維持し予算編成を行うには、国庫負担金等の財源確保とともに、効果的な財政運営を行う必要がある。今後はAI、IOT、RPAといった新しいテクノロジーを活用し、人件費削減などしていく必要がある。また、公共施設も単市で所有するのではなく、近隣市町と連携して、広域的に所有し、維持費を削減していかなければ、人口減少時代には対応していけなくなる。江南市としても、しっかりとした説明を市民にして、理解を得て、政策を押し進めていくことが重要だと感じた。